

よすずめ

ダム愛好家「夜雀」さん

プロ顔負け

分かりやすい洪水調節の解説 話題に

寄稿

水源地環境センター 技術参与

齋藤 源

「好きだから、その働きをたたえたい」

ダムのエキスパート、齋藤水源地環境センター技術参与が「プロ顔負けの女性ダム愛好家」と称賛する夜雀さん。ダムによる洪水調節の分かりやすい解説や情報発信が話題になるとともに、ダムの行事などで講演を頼まれることもある。「ダムが好きだからその働きをたたえられるように勉強中」という夜雀さんの、プロも認めるすゝさを、齋藤氏に寄稿してもらった。

「ダムの放流が洪水を引き起こした」という報道に対する憤り」をきっかけに、ダムの擦り付け操作（*1）から但し書き操作に至るまで、分かりやすく解説したり、疑問点を指摘するプロ顔負けのダム愛好家「夜雀」さん。マスコミの正確さを欠く報道をチェックし、HP（ホームページ）で公開する。このことが、他のダム愛好家たちにも伝わり、大きな洪水のダム操作があるたびに、多くの愛好家がリアルタイム情報を見て事実を伝えている。ダムの洪水調節について、不正確な情報や報道していたマスコミにもこうしたダム愛好家の活動は目に届いているはずである。

夜雀さんは、大洪水時のダム操作について、リアルタイムではダム管理所公表データや水情観測士などの公開データで追跡しているが、疑問点や不思議だなと思う点があると、後日、ダム管理所に飛んでいき、管理所長等にこの時の操作の考え、その背景のほか苦労話も聞いてさらに栄養としている。

疑問点は自分の目で実態を聞いて回る

ダムマニアと呼ばれる人達は、はじめは巨大ダム、美しいダム、圧倒される瀑布などに興味を持ち、全国のダム巡りを始めることが多いようだ。そして、ダムの構造、ダム放流ゲート・パ



夜雀さん (11月7日、島根県奥出雲町三成中央公民館)

祝三成ダム土木遺産認定記

【主催】島根県企業局・土木部、奥出雲町、(公社)土木学会中国支



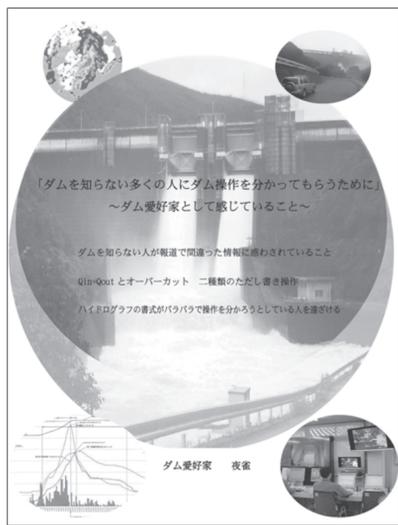
君ヶ野ダムに掲げられているプレート (同ダム管理室提供)

夜雀さんも現在は、洪水時のダム操作には特にこだわっているが、他にもダムの設計や建設工事を始め、利水ダムの操作に至るまで興味を幅広い。夜雀さんがダムに興味を持ったのは、小学生の遠足でダム建設の発破に遭遇したこと、その後、両親と行った猿谷ダムの「監査廊」を見てダム構造を知りたくなったという。

関心がダム構造からダム操作に移っていったのは、三重県君ヶ野ダムの綺麗なホロージェットバルブからの放流を見に行ったときのこと。ダム本体に人名を刻んだプレートが掲げられていた。30年間この管理所に勤め、若くして亡くなった職員を悼む「碑」だった。1982年台風10号の大洪水で道路が寸断され、20*の道のりを徒歩で駆けつけ、続いて来た出戻り9号台風の二山洪水（*2）の操作を乗り切ったという。

この話を聞いて夜雀さんは、管理所職員の動きと洪水調節の大変さを知るとともに、特に但し書き操作について興味を持ったという。以来、2004年由良川でバスが浸かった時の京都府大野ダムのオーバーカット操作（*3）、06年大井川長島ダムの下流河川の水難事故を回避するための放流ストップ、08年夜雀さんのフィールドとしている深川支川木津川の青蓮寺・室生・比奈知ダムの名張市の洪水氾濫を防いだ3ダム連携操作による但し書き、13年京都桂川の氾濫を軽減した日吉ダムの但し書き操作、関東ではあまり知られていないが、14年高知県鏡ダムの但し書き操作時にもできるだけ放流量を抑えた操作などの公表データを分析し、報道をチェック。疑問点があると現地管理所を訪ね、実態を聞いて回る行動力には感服する。

流入量=放流量とオーバーカット 2種類の但し書き操作



「夜雀ノート」

ダム操作の実態周知 報道の内容も変化

また、四国の早明浦ダムは、夜雀さんの特別なフィールドで何度も訪ねている。この話を聞いて夜雀さんは、管理所職員の動きと洪水調節の大変さを知るとともに、特に但し書き操作について興味を持ったという。

最近一番印象深いのは、日吉ダムの操作だ。最初の報道は、ダムの貯水容量がリアルタイム情報で表示される利水容量の300%を超えたという情報を強調してダム放流が氾濫の原因という内容だったが、ダム愛好家仲間が、ツイッターでダム管理所は但し

書き操作で頑張っているという書き込みを時々刻々すると、報道に感化されていた多くの人もダムが頑張っていることを理解し、それに伴って、報道も変わってきたのではないかと。最近、ダムの放流についての批判的な報道も少なくなってきたのではないかと。これは、この前年くらいから「ダム友」と呼ばれる集まりを、水資源機構関西支社とダム愛好家仲間が開いており、ここで洪水調節事例等を持ち寄って勉強している成果が出たとも考えられる。

鏡ダムなども但し書き操作時に、流入量・放流量になる寸前放流量を絞り込んだり、下流の河川水位を見つづつ職員が苦労して細かい操作をしていることが管理所に行き分かったという。残念ながらここまでは報道してない。



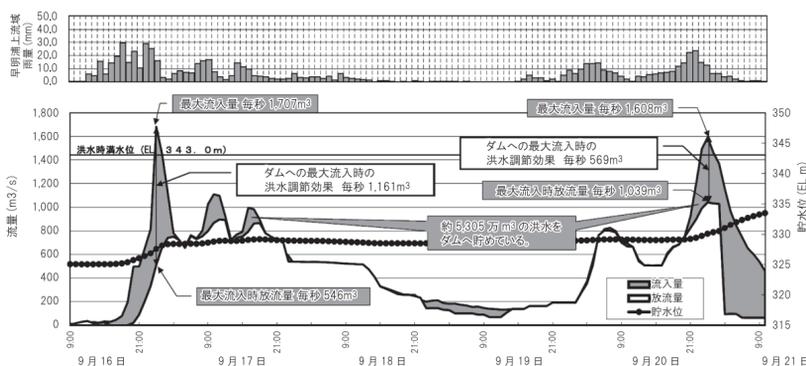
2013年台風18号出水時の日吉ダム

一番分かりやすいタイプというハイドログラフ

・吉野川 早明浦ダム（高知県）

(9月19日～9月21日を対象)
吉野川水系吉野川においては、早明浦ダムで毎秒1,161m³ (最大流入量毎秒1,707m³の時、ダムからの放流量毎秒546m³との差)を調節しており約5,305万m³の洪水を貯留し、下流の水位低減に寄与した。

早明浦ダム諸元(洪水期)
総貯水容量 : 31,600万m³
洪水調節容量 : 9,000万m³



操作だが、これは計画を超える洪水の但し書き操作ではなく、下流の名張市を守るために、貯水容量を有効に活用してダム放流量を絞り込んだ、いわゆるオーバーカット。計画以下の洪水でも下流河川洪水状況により既定の放流量を絞り込む但し書き操作である。この操作の場合、下流洪水の状況把握や今後の降雨・洪水予測など、管理所職員にはやるべき山ほどある。計画以下でも下流の状況により行う但し書きの名称を、夜雀さんは前者を「passive flood control」、後者を「active flood control」と提唱している。

さらに、ダム愛好家でもダム操作状況をj知るためハイドログラフ（*4）をj読むj解jくj人jが多jくなjつjてjいjるj。j管理j所jからj公j表jさjれるjハイドログラフjについて、書き込む項目やグラフの凡例、色使いなどを全統一してほしいともいう。

このように専門外の目で、自分わからないことを自分で確かめ、見て聞いて身に着けた知識であることから、最近は一一般の人にもとより、ダム管理関係の役所からも講演を頼まれることが多い。ことしに入ってから2

- *1 洪水の初期段階でダムへの流入量の増加に合わせて同じ量の放流量をゲートから放流する
- *2 ダムへの流入量がピークを過ぎ低下し始めてから、また流入量が増加して新たなピークとなる
- *3 操作規則の所定の放流量より小さい放流量として下流の洪水を防ぐ操作で、操作規則の但し書き条文にあたる
- *4 縦軸にダム流入量・放流量・貯水位等、横軸に時間としたグラフで、時々刻々のダム流入量・放流量や貯水位等の変化がグラフで読み取れる

月に九州地方整備局、4月の福岡県土木部では「ダムの防災から観光」と幅広いもの、11月7日には今年度の「土木遺産」に選定された島根県三成ダムの記念式典で「国内初のアーチダム黎明の名実体と三成ダム」と題して講演し、大好評だったという。ますます幅広く深くダムにのめり込む、ダム各分野のプロも顔負けの夜雀さんです。